



Title	シーラーズにおけるパン・小麦価格の変動
Author(s)	岡崎, 正孝
Citation	大阪外国語大学アジア学論叢. 1991, 1, p. 149-160
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/99642">https://hdl.handle.net/11094/99642</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## シーラーズにおけるパン・小麦価格の変動

岡崎 正孝

19世紀第3四半期から立憲革命までの時期のイラン社会経済史のテーマの一つは、飢饉とパン騒動である。立憲革命の経済的要因をパン騒動に求めるこどもできる。

筆者は現在この時期の飢饉・パン騒動を研究課題としており、これまで次の4点を発表してきた。

“The Great Persian Famine of 1870-71.” *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, vol. XLIX, Part 1 (1968), 183-192.

「カージャール朝下におけるケシ栽培と1870-71年大飢饉」『西南アジア研究』31巻 (1989), 38-55ページ。

「1898年のタブリーズにおけるパン騒動」『史林』74巻1号 (1991), 118-134ページ。

“Bread Riot and Politics in Late 19th-Century Shirāz during the Rule of Saheb Divān (1881-1889)”, The Middle East Studies Association 1989 Annual Meeting, Nov., 17, 1989.

本稿では、パン問題研究の一つのステップとしてイラン南部ファールス州の州都シーラーズにおけるパン・小麦価格の変化をペルシア語資料 (vaqaye' Ettefāqiye ; Majmu'eh-ye Gozareash-haye Khofyeh-nevisān-e Engelīs, Sa'idi Sirjāni ed. Tehran, 1362/1983-84. 795 p.) より追ってみた。植民地化されず、また中央集権的官僚機構も存在しなかった19世紀のイランに関しては資料が乏しく、社会経済的現象を数字で説明することは難しい。断片的に得られるデータを丹念に集めることができが、必要不可欠であるが、本稿はそのための予備的作業の一部をなす。

小麦・パン価格は本稿から明らかのように、月によっても大きく変動した。また、地域差も大きい。したがって断片的に得られたデータを価格変動の全体的な

動きの中で位置付けてから使用することが必要であろう。

また、本稿では扱わなかったが、貨幣価値の下落も物価を考える場合、考慮の対象に入れなくてはならない。

本稿は目下手がけている「サヘブ＝ディーヴァーンとシーラーズ・パン騒動(1881-89)」の一部をなすものである。

#### シーラーズにおけるパン・小麦価格の変動

(S : shahī / mann-e tabriz ; t : tomān / kharvar)

(20shahī = 1qerān)

(Ten. : Tehran ; Tab. : Tabriz ; Mas. : Mashhad)

パ ン	小 麦	備 考
1862	13s.6d (Mas) [b.8s (Mas)]	[AP. 1863, LXX ] [ibid]
1864		Fars : 2年大豊作
1865/5	[6-7s(Teh) ]	[Tehran Ahd-e Naseri 164 ]
1867	[2-2.5t(Tab) ]	[AP.3953-viii] 豊作
1870/4	[9t(Birjand) ]	[岡崎「飢饉」]
/6	[9s(Bushehr) ]	[7.5t(Bushehr) ] [ibid]
/7	[30s(Esf) ]	[5.5t(Teh) ] [ibid. ]
1870-71 冬	[20s(Teh) ]	[Tehran Ahd-e Naseri 164 ]
1871/5	[50t(Mashhad) ]	大飢饉 [岡崎「飢饉」]
/5	[100t(Kashan) ]	[ibid]
1872	[10t(Tab) ]	
〔 フアルハード＝ミールザー (Mo'tamed al-Douleh) : 1293-1298 / 4. 1876-3. 1881 ]		
1877/8-9	5s	パン騒動
1878/9	7.5s(op)	4.5t(op) [b.2.5t]

11-12	↑		パン騒動
1879/6-7		4.5t [b.3.5t]	
7-8	16s ↑	8t [b.5t]	
8-9	12s	5-5.5t [4-5t]	
9-12	↑		
12-1	11s	6t [4t]	雨降り、下がる。
1880/1-2	↑	↑	上昇
	10s(op)	6t(op,払下価格)	政庁払下げ
4/13			パン騒動
4-5	18s	10t [b.8t]	
5/11	12s(op)	8t(op)	
7-8	14s ↓	7t [b.5.5t]	(収穫期)
〔サー・ヘブ=ディーヴァーン (Mirza Fath Ali Khan : H.M. Ali Akbar Qava m al-Molk の子) , 1298-Jamadi 2月 : 1881-1888〕			
1883		2.5-3t	全国で豊作、〔AP,1884, LXXIX〕
			〔2t(Kermanshah)〕
			〔4-5t(Mas)〕
1884秋		3t [1.5t, Kerman & Mas]	
			84年は不作だが、83年の 余剰あり。
			(AP,1885,LXXVIII)
84-85 冬			多雨→赤錆病→不作
1885/3	8s		
	↑	↑	行幸発表、高騰。
1885/5-6		4t	
(8/?	↓	↓	行幸延期→穀価下がる： PGAR)
8/3			パン騒動

8/6	[12s,op]	[5t,op]	公定価格決定、パン消える。
9-10	20s [16s,op]	10t(20s)	収穫期でも高い。凶作。
10-11	[16s,op]	10t(20s)	パン騒動
11初め		11.5(23s) [b.5t]	上昇
11-12		10t(20s)	ボンベイから小麦輸入。
	↓	↓	雨降り、価格下がる
12-1	20-25s [16s,op]	11.5t(23s)	
1885-86	[10s(Teh)]		AP.1886.
			[2.5t(Kermanshah)] AP.1887.85年は不作。
1886/2-3		↓	若干下がる
4/20			Saheb <sup>^</sup> Divān, エスファハーンへ
5-6			ファールス全土で赤錆病。
6-7	12s		赤錆病にも係わらず豊作。
6-7	12s	↓	パン豊富：大きく下落
7/5	25s	↑	Saheb 縱任。2倍に高騰。
7	[11s,op]		パン騒動、公定価格決定でパン品薄
9-10		9t	
10-11	20-22s [16-18s,op]		
11-12		11.5t [b.7t]	
12/29		↓	雨で穀価下がる小麦豊富に。
1887/3-4		↑	雨降らず、日に日に上昇、パン問題再燃。生活苦より自殺者もでる。
5-6	16s	10-11t	豊作、やや下落。
6-7			豊富だがSaheb が大量の

			小麦を保有しているため、 価格下がらず。
11-12	↑		雨降らぬため。
12-1	↓		<u>2日間雨降り、穀物豊富</u> <u>になる。</u>
1888/1-2 9s	4.5t		雨降り、価格大幅に下が る。
(エフテシャーモッドウレ (Soltân Oveis Mirzâ, Farhâd Mirzâの子), 11 Jamadi II, 1305-Rajab 1309 / 24 Feb. 1888-Feb. 1892)			
1888/5-6	3t [b.1.5t]		大幅に下がる。
6-7	3-3.5t		Firûzkuhでは、2.5t.
9-10	2.5-3t		小麦豊富。
11-12	2.5t [b.1.5t]		やや上昇したが、降雨で 下がる。
1889/1-2	↓		日に日に下がる。
2-3			<u>降水なく、穀価上昇を人々</u> <u>恐れる。</u>
3-4			降雨ないが穀物豊富。価 格上昇なし
10-11	↑		雨降らず、穀価、日に日 に上昇。
12-1	3t.		Lâr, Garmshîr に雨降 る。Shirazでは降水量少 なく、穀価上昇 (注1) 雨、2昼夜降る。
1890/1	↓		いい雨降り、価格下がる。
8-9	3.5t ↑		行幸の噂による。
11-12	↓		雨降り、価格下がる。
1890	[3.2t(Tab) ]		CDR, 798.

1891/4-5	↑	洪水の被害。 <u>行幸を人々</u> <u>恐れる</u> 。王の一行2万人 になればファールスは飢 饉になろう。
5-6	5t(10s)	イナゴの害と行幸の噂で 価格上がる。
6-7	↑ 〔0.5-1s下がる〕	行幸、発表される。高騰。 行幸中止の電報。パン価 引下げ命令。行幸は穀価 上昇の要因の一つ。社会 不安の要因と考えてよい。
8-9 14s	6-6.5t	凶作（赤錆病とイナゴに より）、種子も残らず。 退蔵者の一人鞭打ち刑に。
タバコ・ボイコット期 (12/2禁煙令)		
9-10 12s	5.5-6t	退蔵者釈放。パン屋おそ れをなし、パン価下がる。 (注2)
〔ロクノッドウレ（シャーの弟）, 18 Rajab 1309-23 Sha'ban 1310 / 17 Feb. 1 892-12 March 1893〕		
1892		パン騒動 (DCR, 1376, Esf.)
1892/3-4 18s	8.5t	イナゴの害 (Fasa, Dar ab, Sarvestan; 冬作全滅 ; Khafra, Jahrom一部 被害)。雨なし。高騰 政情不安。
9-10 ↑		
10	〔11t(Yazd)〕	AP, 1894, Esf.

1893/1-2	[13s.op]		
3-4	↑		パン屋パン値上げのため 騒ぐ。
	[14s.op]		政庁、パン屋を処罰、公 定価格を。
〔ネザーモッサルタネ (Hosein Qoli Khan-e Mafi), Sha'bân 1310-3 Ramazân 1311 / March 1893-10 March 1894〕			
1893/5	↑		イナゴの害 (Darab, Fa sa, Khafra, Kavar, Mar vdashtの一部で全滅)、住 民移住
5/13			騒動、閉店、住民不安。
6-7	[16s.op]	9t	新麦の売価を自由にし、 豊富。
7-8 18s			政情不安。騒動。パン政 策混乱。
10-11 20s		10-11t.	パン屋騒動。
11/20 25-26s		12t [b.8t]	
11-12	↑	↑	物価高騰
12/10	[17s.op]	[10t.op]	政庁小麦(20s/mann)を 放出(注3)。
12/14-21	↑	↑	洪水で燃料届かずパン価 高騰。
1894/1-2	↑	↑	大雨(家屋崩壊)で高騰。 パン問題。
2/27-	↑	↑	大雨(家屋崩壊)。政情 不安、高騰。
〔ロクノッドウレ, Ramazân 1312-1314 / March 1894-July 1896 (着任: 10 Au gust 1894) 〕			

1894/3-4			イナゴの害 (Fasa, Dar ab)。政情不穏
4-5 30s.	12t [b.6.5t]		イナゴの害広がる。高騰。 政情不穏。
5-6 ↑	↑		政情不穏。
8-9 28s	12t [b.7-8t]		知事着任し(8/10)、若 干下がる。
	13.5t [b.9t]		再び上昇。
9-10			パン問題会議召集。
10/30			パンと薪炭問題に抗議し バスト (3-40人ほどの女 性) (注4)
11-12 40s [28s.op]	15t [b.10t]		公定価格決めるも守られ ず。大雨で高騰
12-95/2 ↑	↑		大雪で薪価高騰。政情不 穏。
1895/3-4 ↑	↑		イナゴの害、穀価上昇
4-5			イナゴの害広がる。
5-6 ↑	↑		イナゴの害広がる、高騰。 混乱続く。
6-7			
7			現物納に抗議し地主バ スト。
9-10 30s			知事、代金納を認め、地 主2か月続けたバストを 解く。 (注5)
10	[19t(Yazd)]		[AP, 1896, DCR, 1662]
11-12 25s			小麦豊富、若干下がる。
1896/4-5 40s [30s.op]			凶作。パン品質悪化、高騰。

5-6	↓	15-20t [b.6t]	
5	(ナーセレッディーン=シャー暗殺)	治安悪化。	
〔ナーゼモッドウレ (M. Asadollah Khan Vakil al-Molk),			
1314-1315 /July 1896-Sept. 1897 (着任: Oct. 1896)]			
1897/3-4		30t.	イナゴの害 (全土、とくにDarāb) (注6) パン騒動。カーゼルーンでもパン価高騰、暴動発生。
4-5	↑	↑	5-10 shahī ほど上がる。
5-6	↑	↑	エスファハーンからの小麦の移入減り、穀価上昇。イナゴの害 (Marvdasht, Khafrak)
			[30-40t (Kazerun, Dashti, Dashtestan)]
6-7		15t [b.5t]	収穫期。昨年より高い。
7/16		12.5-13t [b.8t]	
9-10		[b.9-10t ]	
			(5t. Kermanshah) DCR, MS, 590
〔ファルマーン=ファルマー (Farmānfārmā, Abdol Hosein Mirzā), -Ramazān 1316 : 1897/9-1899/1(着任: 21 Jan. 1898) 〕			
1897/11-12 22s			
1897/12-1 26-27s		13t [b.11t ]	政情不穏。
1898/1-2 29-30s			知事・パン対策にのりだす。雨なし。
3-4 25s [20s.op]			知事、エスファハーンから小麦の移入を図る。
			パン騒動。
4			エスファハーン知事ゼッロッソルタン、同州か

			らの小麦の移出を禁止。
4-5	↑		雨降らず。
5/21		20t [b.10t]	
5-6	↓	10-11t [4-5t]	大量の入荷で一度に下がる。
6-7		13.5-14t [b.6-6.5t]	穀価、日に日に上昇。エスファハーンでも不足。
9-10	↑(2s.up)		
11		14t [b.8t]	
	↓(1s.down)		雨により、各 1s./mann 下がる。
			(12.5t Kermanshah in 1989)
1899/1-2		12.5t(1 riyal)	12月末より雨降り、下がる。
〔ネザーモル=モルク (Mirzâ Abdol-Vahhab Khan : M.Aqâ Khan Nûrî の孫), Ramazân 1316-1317/Jan.			
1899-March 1900 (着任 : March 1900) ]			
4-5	↓		4-5 s./mann 下がる。
6	18-20s	9-10t [b.3.5-4t]	
8		7-7.5t [b.3.5-4t]	
11-12			税の物価騒動。
12-1		↑( 2s/mann up)	
〔モアヤドゥレ (Abol-Fath Mirzâ : Soltân Morâd Mirzâ Hesâm al-Saltaneh の子) March 1900-Feb. 1901 (着任 : 16 June 1900) ]			
1900/4-5			雨なく、上昇。 パン騒動なし。

[ショアーオッサルタネ (Malek Mansur Mirza : Mozaffar al-Din の次男) : Feb. 1901-March 1902 (着任 : April 1901) ]

(凶作)

1901/5-6		[16s.op]	
9		8t [b.6t]	
10			パン騒動
10-11		11t [8-8.5t.op]	パン品薄。
11-12		11-12t [b.10t]	パン問題深刻、麦入手難。
1902/1		[10-11tで放出]	政庁、麦の放出。
1-2	↓(2s.down)	↓	雨で下がる。
2-3	28s↑	12t [b.11t]	この価格で入手出来ず。

(注1) 穀作地に雨降っても、町に情報が伝わらず、価格低下の要因にならなかった。12月のように収穫期でなくとも、降水により穀価が下がった事は、翌年の用水供給量の増加・豊作が期待され、それが穀物の価格の下落を招くと考えられ、退蔵者が手持ちの小麦を放出したためである。他方、冬の降水量が少ないと、退蔵が行われ、価格は上昇した。

この年には、2-3月に雨少なく、人々は価格の上昇を恐れたが、価格は上がらなかった。これは知事 Ehtesham al-Douleh が適切なパン対策を行ったことと、大量に小麦を所有し、穀価を操作していた知事代理 Saheb Divan がエスファハーンに去了ることによるものであろう。

大地主の Saheb Divan が知事であったなら、飢饉になっていたであろう、とのことであるが、これらは小麦は絶対量として不足はしておらず、価格はきわめて人為的に左右されたことを示している。

(注2) この知事 (Ehtesham al-Douleh) の時には、比較的事態は良好であった。暴利をむさぼる穀物商を知事は厳しく罰しており、これも価格の安定につながった。)

(注3) 政庁は小麦を1マン当たり1ケラン (=20シャーヒー) でパン屋に売り、パンの公定価格を次のように定めた。パン豊富になり、公定価格守られている。

Sangak, 17 shahī ; Tanuri, 18 shahī ; Tāveh-bargardan, 15-16 shahī. (p.444).

また、zorrat をマン当たり10 shahī で払い下げ、nān-e zarrat の公定価格を 10shahī

とする。〔1893／12〕

(注4) パン屋を集めパン価を決めるが 守られず。〔1894／12〕

Sangak, 28 shāhī ; Tanūrī, 30 shāhī ; zorrat, 16 shāhī.

(注5) 次のレート (tas'īr) で代金納されることになった。

(小麦6tomān / kharvār ; 大麦、4tomān) (p.492)

(注6) イナゴ対策に、収穫期の早い大麦を小麦に代わり作付けており、そのため直接の被害は少なかったが、小麦の収量が大きく減り、小麦不足の原因になっている。〔PGAR, 96-97〕